

特徴語に見る高校英語教科書語彙の時代的变化 -1980年代と2000年代教科書の比較-

西垣知佳子
中條 清美
長谷川修治

1. はじめに

英語の習得にはインプットが不可欠であるが、日本では英語授業以外の場面で英語に触れる機会はほとんどなく(金谷, 2002), 日本人英語学習者にとって学校教育の根幹をなす英語検定教科書は、英語の主要なインプット源である。そのため英語教科書が英語習得に与える影響は大きい。また語彙力は言語能力の基盤をなすと言われる(Daller, *et al.*, 2007)。したがって、教科書を通して、どのような内容の語彙をどの程度まで提示するかによって、目標言語における学習者の言語獲得は大きく変化すると考えられるため(石川, 2008: 165), 英語の語彙指導を考える上で、教科書語彙の調査は重要であると言えよう。

近年の科学技術の発達と普及によって、コーパス言語学が盛んになり(齊藤, 2005), 教科書出現語彙の研究が活発になっている。高校英語教科書では、中心となる「英語Ⅰ」「英語Ⅱ」「リーディング」¹を対象に、できる限り多くの教科書を収集し、出現語彙を調査している例に、垣田他(1987), 塩見(2002), 中條他(2007)等がある。これらの研究では異語数・延べ語数等の定量的調査が中心であり、高校英語教科書を広く収集して、語彙の定性的調査を行った研究は多くはない²。

高校では2009年3月に新学習指導要領が告示された。今回の改定は「ゆとり教育からの転換」を目指すもので、高校の英語では新語数が現行の1,300語から500語増えて1,800語となった。本研究では、「ゆとり教育」時代の高校英語教科書語彙について、その開始の1980年代と、終焉を迎える2000年代を比較して質的变化の一端を明らかにすることを目的として行われた。調査は、1980年代教科書と2000年代教科書を広く収集し、両年代それぞれの教科書の特徴語を抽出して行った。

2. 研究の方法

2.1 言語資料

1988年と2006年に使用された高校英語教科書に出現する語彙を調査した。

1) 1980年代教科書

1988年度に使用された教科書は、「英語Ⅰ」44冊、「英語Ⅱ」40冊、「英語ⅡB」26冊の計110冊であった（文部省, 1987）。本研究では、採択数等を考慮してそのうちの100冊を調査対象とした。同一の出版社から発行された同名の教科書は同一のシリーズとしてまとめ、計40シリーズの教科書を対象とした。出典を付録1に示した。

2) 2000年代教科書

2006年度には、「英語Ⅰ」34冊、「英語Ⅱ」36冊、「リーディング」25冊の計95冊の教科書が出版された（文部科学省, 2006）。本研究では95冊、計35シリーズを調査対象とし、出典を付録2に示した。

2.2 高校教科書語彙リストの作成

上記1)と2)の高校教科書の本文を入力、校正して教科書コーパスを作成した。続いて、単語の基底形（base form）に基づく語彙リストを作成した。なお、固有名詞や数字等は特定のテキストに集中して出現することが多く（Nation, 2001: 19-20）、語彙リストの比較・観察の際には障害となるため除去されることが多い。語彙リストの作成に際してはこれらの語を手で取り除いた。

2.3 特徴語抽出の基準

本研究では、当該語がすべての高校教科書中のいくつかのシリーズの教科書に出現したかを示す「レンジ」の値を算出した。たとえば、「レンジ20」は全シリーズ中の20シリーズの教科書に当該語が出現したことを示す。1980年代と2000年代教科書の総シリーズ数が異なるため、レンジの数値を総シリーズ数で割ることにより「正規化レンジ」を算出し、1980年代と2000年代教科書間で正規化レンジの差の大きい語を各年代の「特徴語」とした。

3. 結果と考察

3.1 特徴語リスト

レンジ差の大きい語から順に並べた「特徴語リスト」のうち、上位から50位までを年代別に一覧にしたものが表1である³。次節では、これらの年代別の特徴

語の傾向を把握し、両年代教科書の特徴をとらえるために、西垣他（2007）で利用された「意味領域」の分類を用いてそれぞれの特徴語がどのような意味領域に属する語で構成されているかを調査した。

表1 1980年代教科書と2000年代教科書の特徴語上位50語

1980年代				2000年代			
1	harbor	26	supper	1	e-mail	26	cancer
2	o'clock	27	wagon	2	project	27	reduce
3	pleasant	28	anxious	3	challenge	28	impress
4	pupil	29	stir	4	lifestyle	29	positive
5	weep	30	palace	5	researcher	30	medium
6	queen	31	umbrella	6	technology	31	data
7	sir	32	clever	7	global	32	delicious
8	western	33	mile	8	wheelchair	33	user
9	fond	34	ought	9	computer	34	connection
10	tennis	35	darkness	10	environment	35	disability
11	noon	36	gray	11	landmine	36	marathon
12	garden	37	sheep	12	site	37	unique
13	captain	38	strength	13	beef	38	effective
14	policeman	39	avenue	14	volunteer	39	recycle
15	lovely	40	date	15	negative	40	phone
16	state	41	fort	16	local	41	emotion
17	bend	42	handful	17	interview	42	survive
18	obey	43	knock	18	despite	43	totally
19	sweet	44	south	19	garbage	44	issue
20	poetry	45	east	20	communicate	45	pressure
21	sail	46	expensive	21	access	46	soccer
22	afterward	47	loudly	22	environmental	47	benefit
23	smell	48	charm	23	focus	48	technique
24	twice	49	battle	24	ban	49	bike
25	row	50	foreigner	25	goal	50	campus

3.2 意味領域からの観察

意味領域による分類はMcArthur (1981) の *Longman Lexicon of Contemporary English* (以下LLCE) を参照した。同辞典は、約15,000語を「生物」、「人間」、「思考」といった14の上位領域と129の低位領域に分けている。本研究ではLLCEに

基づいて兩年代の特徴語の各50語を14の上位領域に分類した。領域名の日本語の略称は寺澤(1981)を参考にした。同一の語が複数の領域に属する場合は、属するすべての領域を数えた。LLCEに掲載されていない語は「その他」に分類し、結果を表2に示した。

兩年代の特徴語50語における構成比率の高い意味領域の上位には、1980年代では「運動・場所・運輸」,「感情」,「人間」,「空間・時間」,「抽象」,2000年代では「抽象」,「思考」,「娯楽・スポーツ・ゲーム」,「運動・場所・運輸」,「その他」があった。次にこれらの特徴語が実際にどのようなテーマやトピックで現れているのかを仔細に観察するため、上位の意味領域に含まれる特徴語が、実際に兩年代の教科書ではどのような文例の中で出現するかを観察した。

表2 特徴語上位50語の意味領域の構成比

1980年代教科書		2000年代教科書	
意味領域	%	意味領域	%
運動・場所・運輸	15.5	抽象	19.3
感情	14.3	思考	15.9
人間	14.3	娯楽・スポーツ・ゲーム	10.2
空間・時間	11.9	運動・場所・運輸	9.1
抽象	9.5	その他	9.1
飲食物	6	人間	6.8
数・金融	6	物質・器具	4.5
建物	4.8	科学・技術	4.5
思考	4.8	数・金融	4.5
身体	3.6	身体	3.4
娯楽・スポーツ・ゲーム	3.6	建物	3.4
生物	2.4	感情	3.4
その他	2.4	生物	2.3
科学・技術	1.2	飲食物	2.3
物質・器具	0	空間・時間	1.1

3.3 特徴語のコンコーダンス分析

特徴語の検索には、コンコーダンス・プログラムというデータの中から語句を見つけるソフトウェアを使って、コンコーダンス分析を行った⁴。この方法によって、図1のように教科書コーパスの中から特徴語の出現する文を見つけ、特徴語の左

右に前後の文脈を配置して、特徴語が現れる例を観察した。

1980年代教科書で最も比率の高かった「運動・場所・運輸」の領域には *wagon, harbor, sail, avenue*等の語が含まれた。図1には *wagon* の検索結果の一部を示した。検索例は異なる教科書から抽出されたものであり、「荷馬車」の意味で出現する例が全体のおよそ90%を占めた。*harbor* を検索したところ、*Plymouth harbor, New York harbor, Manhattan Island near the harbor* 等のアメリカの地名と結びつく例が多かった。また “ships sailing slowly about the harbor” のように、*harbor* の近くに *sail* が出現する文例も多く、アメリカへの移民や入植が話題となっている例が多い。1980年代教科書では、2000年代に比べ、北米の開拓時代の事柄が題材として取り上げられることが多かったと言える。江利川(2008:148)によれば、「『英語帝国主義』論が世界で本格的に論じられるようになったのは1990年代から」ということである。1980年代の教科書では、依然として英米の文化や歴史に対する強い関心が寄せられていたと考えられる。

I use one stable, where he keeps	<i>a</i>	wagon	and a horse.
He pointed to	<i>a</i>	wagon	which held four calves.
	<i>A</i>	wagon	is useless without a horse.
that had been all right for horses	<i>and</i>	wagons	were not wide or smooth enough
rode in car pools even in horse	<i>-drawn</i>	wagons	and the buses stayed empty.
people traveled across America	<i>in</i>	wagon	trains.
"Canvas? What for?" "For tents.	<i>Or</i>	wagon	covers."
"I'll tie down	<i>the</i>	wagon	-cover," Pa said.
three men on the front seat of	<i>the</i>	wagon	must have been a "hero."
When	<i>the</i>	wagon	moved off, Mary paused

図1 “wagon” の検索結果の例

1980年代教科書で2番目に多く現れた「感情」の領域には *sweet, pleasant, weep, lovely* 等が含まれた。図2には、*sweet* の検索例を示した。*sweet* には *sweet face, sweet smile, sweet girl* のように人に関するもの、*sweet memory, sweet talk, sweet music* のような事象に対する思いを込めた表現等があった。*pleasant* では *pleasant person, pleasant-looking man, pleasant voice, pleasant smile* のように人に関するもの、*pleasant evening, pleasant time, pleasant valley, pleasant spot* のように時や場所に関するもの、*pleasant sound, pleasant mood, pleasant smell, pleasant sight* のように感覚に関する例が見られた。1980年代教科書では、2000年代教科書に比べて「感情」に言及する表現や文が多かったと言えよう。1980

年代の教科書には2000年代の教科書と比較して小説や物語等のStoriesに分類される内容の読み物が多かった (Yamanaka, 2004) と考えられる。

but, please don't make any	sweet	<i>cakes</i>	or anything like that."
One of the most popular of Italian	sweet	<i>dishes</i>	is the rich, delicious,
He looked at her dear	sweet	<i>face</i>	and kind eyes.
Don't be afraid,	sweet	<i>girl,</i> "	said the king's son.
They also eat a	sweet	<i>holiday</i>	candy known as candy corn,
and its long tongue it hunts for a	sweet	<i>juice</i>	called nectar.
A	sweet	<i>memory</i>	came back to both Neville and
shining as before, and there was	sweet	<i>music</i>	and the nice smell of flowers
He smiled a	sweet	<i>smile</i>	at me.
easy for you to win her back with	sweet	<i>talk.</i>	

図2 “sweet” の検索結果の例

1980年代教科書で同じく2番目に多かった「人間」の意味領域には *queen*, *foreigner*, *captain*, *policeman*等があった。*queen* を含むフレーズでは *king and queen* が最も多く、1980年代教科書では物語が題材として多く扱われていることが推定できる。また *foreigner* には *foreigner who comes to Tokyo* や *first foreigner to visit Hishiura* のように関係代名詞や不定詞で後置修飾される例が多かった。

1980年代教科書で4番目に多く現れた「空間・時間」には *o'clock*, *south*, *east*, *date* 等が含まれた。*o'clock* は *a volunteer until five o'clock* など時間について言及する文に現れた。*south* は *south of the Arctic Circle*, *south of Peru*, *south of Darwin* のように「*south of* 地名/国名」の形で多く現れた。*east* を含むフレーズで最も多かったのは *east and west* であった。*south* や *east* と共起する国名・地名を見ると、様々な国や地域が題材として扱われていることもわかった。また *date* の検索結果 (図3) からは、「日付」だけでなく「デート」の意味で出現することが多く、全体の約60%が「デート」の意味であった。フレーズでは *ask a girl for a date* が最も多く、*first date*, *group date*, *double date* 等、デートの種類を表す表現もあった。高校生という年齢を意識し、学習者の興味に配慮した題材選定が行われていることがわかる。

When you have asked a girl for	<i>a</i>	date	and she seems to hesitate, don't
Finally, I decided to ask her for	<i>a</i>	date.	
This is what they call a	<i>double</i>	date.	
Many people find	<i>group</i>	dates	a lot of fun.
Teenage boys and girls never	<i>have</i>	dates	in pairs.
I'll be seeing you and see you	<i>later</i>	date	from the 1870s, see you in church
machines wear out or become out	<i>of</i>	dates,	the farmers must change them for
here exactly twenty years from	<i>that</i>	date	and time, no matter what our
cities are today generally up	<i>to</i>	dates,	the Chinese as a group continue
computer keeps the inventory up	<i>-to</i>	-date.	

図3 “date” の検索結果の例

次に2000年代教科書に多かった意味領域を上位から観察した。2000年代教科書で最も多い「抽象」の領域には *pressure, local, benefit, focus* 等の特徴語が含まれた。*pressure* では *blood pressure* が最も多く、他に *peer pressure, social pressure* という現代社会を反映した表現もあった。また *a lot of pressure, enormous pressure, heavy pressure, low pressure, strong pressure* のように量や程度を伴った表現が多く現れた。*local* は *local people* のフレーズが最も多く、他には、図4に示したように *local languages, local dialects* と言葉に関するもの、*local communities, local customs, local traditions* と社会生活に関するもの、*local church, local bank* と施設に関するもの等があった。2000年代教科書では、その土地や地元に対する意識が高まっていることがわかる。

to make the sleeping bags at a	local	<i>church.</i>	
had a negative influence on the	local	<i>communities.</i>	
If you want to experience	local	<i>customs</i>	in Okinawa, you could try the
causing minor languages and	local	<i>dialects</i>	to gradually become extinct
we should rediscover and enjoy	local	<i>foods</i>	and cooking cultures.
huge piles of trash every day, and	local	<i>governments</i>	don't have enough room to
They have been sung by people in	local	<i>languages</i>	for many generations.
The	local	<i>law</i>	said that black people must give
and larger hotels, so the	local	<i>people</i>	can make more money from
economies and global culture on	local	<i>traditions</i>	and local identities.

図4 “local” の検索結果の例

2000年代教科書で2番目に多く現れた「思考」の意味領域には *issue, media, communicate, positive, negative* 等が含まれた。図5に示した *issue* の検索結果の例を見ると、環境、健康、地雷、人種等、様々な現代社会の問題が題材として取り上げられていることがわかる。また *media* では *media literacy* のフレーズが最も多く、次いで *mass media* が多かった。他には *media consumers, media education, media bias* 等の表現もあった。情報教育に力を入れている今日の教育の現状が垣間見られる。2000年代教科書で3番目に多かった「娯楽・スポーツ・ゲーム」の意味領域には *marathon, goal, challenge, soccer* 等があった。*marathon* では *city marathon, half marathon, full marathon, charity marathon* のようなマラソンの種類を示す表現があった。

As a 21st	<i>century</i>	issue,	lack of drinkable water was
Brown (1934-) is an expert on	<i>environmental</i>	issues.	
become more concerned about	<i>global</i>	issues	like peace, cultural diversity,
have not already concerned over	<i>health</i>	issues	has not stopped many athletes
How did this	<i>mine</i>	issue	become connected to your music?
and learned about local	<i>political</i>	issues	firsthand.
can say that they have their	<i>race</i>	issues	worked out, but I like myself."
What are the science	<i>related</i>	issues	that the public will have to make
students become interested in	<i>social</i>	issues	while they are in school.
Of course this does not mean that	<i>water</i>	issues	are simply environmental issues.

図5 “*issue*” の検索結果の例

2000年代教科書で4番目に多かった「運動・場所・運輸」の領域には、*environment, environmental, site, wheelchair* 等が含まれた。*wheelchair* では *person in a wheelchair, people in wheelchairs* のフレーズが多く、福祉の話題が取り上げられていることがわかる。また、近年、環境問題への関心が高まっていることから、*environmental* を検索したところ *environmental problems* のフレーズが最も多く、他には図6に示したような例があった。さらにインターネットの普及とともに、日本語としても浸透している *site* を検索したところ、最も多かったのは *World Heritage site* であった。インターネット関係では *Internet site, web site, shopping site* があった。その他に *Jomon site, natural site, cultural site, explosion sites, training site, waste site* 等があり、いずれも現代社会を反映する表現と言える。

The reporter said: "Some	environmental	<i>activists</i>	were attacked and killed in Alger
Maldivian minister for	environmental	<i>affairs,</i>	"our whole country could be
Silent Spring started an	environmental	<i>campaign</i>	that has grown into one of the
remote home because of the	environmental	<i>damage</i>	they had caused.
Japan's first large-scale	environmental	<i>disaster.</i>	
global warming in a survey of	environmental	<i>experts</i>	in more than 50 countries.
Without this book, the	environmental	<i>movement</i>	might have been long delayed
A leading Mexican	environmental	<i>organization</i>	is asking for the release of Luna's
enthusiasm, they bring serious	environmental	<i>problems</i>	to the attention of others.
Recycling has	environmental	<i>side</i>	effects..

図6 “environmental” の検索例

2000年代教科書では、14の意味領域に分類されない「その他」の領域の特徴語の比率が、「運動・場所・運輸」と同じ4番目に位置した。この項目に分類された特徴語には、*e-mail, campus, lifestyle, landmine, recycle, researcher, totally, user* が含まれた。これらの多くは現代社会のキーワードとも考えられ、2000年代教科書においては時代を反映したテーマが広く扱われていることがわかる。例えば *lifestyle* では、*modern lifestyle, resort lifestyle, Korean lifestyles, simple lifestyle, fast lifestyle* 等のフレーズがあり、*user* では、*user dependency, user-friendly, second-language users, chopstick-users, cell-phone users, wheelchair users* 等があった。*e-mail* は *e-mail from* と *e-mail to* の形が多く、*e-mail address* も多かった。*landmine* では *landmine victim*、*recycle* では *recycled paper, recycled water* 等の表現があった。

以上、2000年代教科書では1980年代教科書に比べ、時代を反映した現代的トピックが扱われていることがわかった。伊村(2003)によれば、1994年は「日米でインターネット元年」、1997年には「グローバル化／異文化／国際理解が合言葉に」とされ、児玉(2009)によると、1999年から2004年はバブル経済崩壊後の「リストラ・失業と環境問題の深刻化」「情報通信の急展開」の時代であったとされる。英語教育にも間接的にこのような影響が及び、教材の内容に反映されているものと考えられ、2000年代教科書では、現代社会、国際社会で話題になっている事柄を反映した、多様な題材が取り上げられていることがわかる。

本稿で調査対象とした1988年と2006年の高校英語教科書が準拠する学習指導要領(1978, 1999)の決定的違いは、近年の英語教育におけるキーワードとも言える「コミュニケーション」という用語の有無である。特に、2003年から使用さ

れている英語教科書は、「実践的コミュニケーション能力の育成」を目的としている。同時に2003年には、文部科学省から『『英語が使える日本人』の育成のための行動計画』が出され、「グローバル化／異文化／国際理解」へ対応するために「実用主義」への動きが加速した時代でもある。2000年代の教科書にはこのような言語政策的背景がある一方で、1980年代は、まだ「英米偏重」の「教養主義的」「文学的・情緒的」要素が残されていたと考えられよう。

4. まとめ

英語検定教科書は、新出語彙の制約のために扱う内容が制限される。2000年代教科書では、ゆとり教育の結果、新出語数が1980年代教科書よりも少なくおさえられている。それにも関わらず、今回調査した高校教科書の特徴語の観察から、2000年代教科書では1980年代教科書よりも扱う内容やトピックが広がり、広く世界や社会を捉え、時代に即したテーマが取り上げられていることがわかった。学校教育における英語授業の目的は、コミュニケーションの道具としてスキルを習得することに留まらず、国際理解、国際交流を促し、知的・情操的側面の発達を促進することに寄与するものである。2009年告示の新学習指導要領に基づく新しい教科書では新出語の数が増えることによって、「実践的コミュニケーション能力」や「英語が使える日本人」の育成からさらに前進し、より充実した内容になることを期待したい。

1. 「リーディング」は1978年告示の学習指導要領では「英語ⅡB」であった。
2. 規模の限られた定性的調査には、高校教科書4種についてWmatrix (Rayson, 2008) を利用して意味領域の頻度を算出した石川 (2008) や、単語散布図を利用して1988年と2006年に出版された8シリーズの高校教科書の特徴語の観察を行った中條他 (2008) がある。
3. 特徴語リストのうち、80年代教科書特徴語上位では48番目から51番目までが、また2000年代では46番目から55番目までが同順位であった。同順位についてはABC順に並べて50位までを表1に掲載した。
4. コンコーダ分析にはAntConc (Anthony, 2004) を活用した。

引用文献

- Anthony, L. (2004) AntConc: A learner and classroom friendly, multi-platform corpus analysis toolkit, *IWLeL 2004: An Interactive Workshop on Language e-Learning*, 7-13.
- 中條清美, 吉森智大, 長谷川修治, 西垣知佳子, 山崎淳史 (2007) 「高等学校英語教科書の語彙」『日本大学生産工学部研究報告B』40, 71-92.
- 中條清美, 西垣知佳子, 長谷川修治, 内山将夫 (2008) 『ゆとり教育』時代の高校教科書語彙を考える—1980年代と2000年代の高校英語教科書語彙の比較分析からの考察—『英語コーパス研究』15, 57-79.
- Daller, H., Milton, J. and Daller, T. J. (2007) *Modelling and Assessing Vocabulary Knowledge*, Cambridge: Cambridge University press.
- 江利川春雄 (2008) 『日本人は英語をどう学んできたか—英語教育の社会文化史』東京: 研究社.
- 伊村元道 (2003) 『日本の英語教育200年』東京: 大修館書店.
- 石川慎一郎 (2008) 『英語コーパスと言語教育』東京: 大修館書店.
- 垣田直巳, 三浦省五 (1987) 『文部省検定済高等学校用 英語教科書使用語彙 (英語Ⅰ・英語Ⅱ・英語ⅡB)』広島: 溪水社.
- 児玉幸多 (編) (2009) 『日本史年表・地図』東京: 吉川弘文館.
- 金谷憲 (2002) 『英語授業改善のための処方箋』東京: 大修館書店.
- McArthur, T. (1981) *Longman Lexicon of Contemporary English*, England: Longman.
- 文部省 (1978) 『高等学校学習指導要領』<http://www.nicer.go.jp/guideline/old/s53h/chap2-7.htm>.
- 文部省 (1987) 『高等学校用教科書目録 (昭和63年度使用)』東京: 文部省.
- 文部省 (1999) 『高等学校学習指導要領』東京: 大蔵省印刷局.
- 文部科学省 (2006) http://www.mext.go.jp/a_menu/shotou/kyoukasho/mokuroku/17/koutou/index.htm.
- Nation, I. S. P. (2001) *Learning Vocabulary in Another Language*, Cambridge: Cambridge University Press.
- 西垣知佳子, 中條清美, 西岡菜穂子 (2007) 「小学校英語テキスト出現語彙の意味領域による分析」『日本児童英語教育学会 研究紀要』26, 15-26.
- Rayson, P. (2008) From key words to key semantic domains, *International Journal of Corpus Linguistics*, 13: 4, 519-549.
- 齊藤俊雄 (2005) 「英語コーパス言語学とは何か」齊藤俊雄, 中村純作, 赤野一郎編著『英語コーパス言語学—基礎と実践—改訂新版』東京: 研究社.

- 塩見知之 (2002) 『文部省検定済中学校・高等学校教科書に現れた英語の語彙』 東京: 北星堂.
- 寺澤芳雄 (1981) 『Longman LEXICON of Contemporary English 解説—特色と使い方—』 東京: 丸善株式会社.
- Yamanaka, Nobuko (2004) An evaluation of English textbooks from the viewpoint of culture based on the 2003 Ministry of Education's Course of Study Guidelines, *JACET Bulletin*, 39, 87-103.

付録1 1988年度高等学校英語教科書40シリーズ (* 1989年度用)

1	ACORN English Course I, II	(金田道和他, 啓林館)
2	A BETTER GUIDE TO ENGLISH I, II, II B	(安井稔他, 開拓社)
3	THE NEW CENTURY ENGLISH SERIES I, II	(若林俊輔他, 三省堂)
4	CHUO ENGLISH STUDIES I, II	(上山政義他, 中央図書)
5	COSMOS ENGLISH COURSE I, 2*	(大浦暁生他, 三友社)
6	CREATIVE English Course I, II, Reading	(垣田直巳他, 第一出版)
7	THE CROWN ENGLISH SERIES I, II, II B	(平野敬一他, 三省堂)
8	NEW CURRENT in English I, II, Reading	(垣田直巳他, 第一出版)
9	DAILY ENGLISH COURSE I, II*, II B	(高梨健吉他, 池田書店)
10	ENJOY ENGLISH I, II, II B	(長谷川潔他, 教育出版)
11	FIRST ENGLISH SERIES I, II*	(中村敬他, 三省堂)
12	FRESH ENGLISH I, II (UNIT ONE, UNIT TWO)	(羽澄栄治他, 第一出版)
13	Go, English! I, II	(今村茂男他, 東京書籍)
14	HELLO ENGLISH I, II	(池永勝雅他, 学図)
15	HIGHROAD TO ENGLISH I, II, II B	(岩元巖他, 三省堂)
16	NEW HORIZON English Course I, II; NEW CRYSTAL English Readings II B	(緒方勲他, 東京書籍)
17	THE INTERNATIONAL ENGLISH I, II, Reading	(清水貞助他, 開拓社)
18	NEW LIGHT ENGLISH I, II, II B	(橋本宏他, 開隆堂)
19	LIVING ENGLISH I, II*	(大柳英二他, 一橋)
20	MAINSTREAM I, II, II B	(安藤昭一他, 増進堂)
21	MILESTONE English Course I, II*, II B*	(成田義光他, 啓林館)
22	My Way To English I, II	(石井清他, 一橋)
23	ENGLISH NOW I, II	(佐藤秀志他, 開隆堂)
24	Pioneer ENGLISH I, II*	(蛭川久康他, 開拓社)
25	PRACTICAL ENGLISH COURSE I, II, II B	(高梨健吉他, 池田書店)
26	RACCOON ENGLISH READINGS II B*	(小野寺健他, 筑摩)
27	The Rainbow English Course I, II	(末永国明他, 文英堂)
28	READ ENGLISH II B	(池永勝雅他, 学図)
29	NEW SCOPE English Course I, II; NEW WAVE English Readings II B	(伊藤健三, 小池生夫他, 東京書籍)
30	The Senior English One, Two, Readings II B	(福田陸太郎他, 旺文社)
31	NEW STANDARD ENGLISH I, II	(木原研三他, 一橋)
32	Sunrise English I, II, II B	(小川芳雄他, 旺文社)
33	Sunshine English Course I, II*, II B*	(土屋澄男他, 開隆堂)
34	SENIOR SWAN English Course I, II, II B	(芦沢栄他, 開拓社)
35	ENGLISH TODAY I, II*	(梶木隆一他, 教出)
36	SENIOR TOTAL ENGLISH I, II	(中島文雄他, 秀出)
37	UNICORN ENGLISH COURSE I, II, II B	(吉田正俊他, 文英堂)
38	VISTA ENGLISH SERIES I, II (Step One, Step Two)	(横川信義他, 三省堂)
39	WHY ENGLISH I, II	(池永勝雅他, 学図)
40	NEW WINGS I, II	(田中一郎他, 開隆堂)

付録2 2006年度高等学校英語教科書35シリーズ

1	ACORN English Course I, II	(金田道和他, 啓林館)
2	All Aboard! English I, II	(久村研他, 東京書籍)
3	Captain English Course I, II	(米山朝二他, 大修館)
4	CROWN English Series I, II, Reading	(霜崎實他, 三省堂)
5	DAILY ENGLISH COURSE I, II, Reading	(高梨健吉他, 池田書店)
6	ENGLISH NOW I, II	(石井丈夫他, 開隆堂)
7	EXCEED English Series I, II, Reading	(森住衛他, 三省堂)
8	Genius English Course I, II, Reading	(米山朝二他, 大修館)
9	Lingua-Land I, II	(赤川祐他, 教育出版)
10	MAINSTREAM I, II, Reading	(鈴木寿一他, 増進堂)
11	MILESTONE English Course I, II, Reading	(島田守他, 啓林館)
12	NEW COSMOS English Course I, II, Reading	(大浦暁生他, 三友社)
13	New English PAL I, II	(和田稔他, 桐原書店)
14	NEW LEGEND ENGLISH I, II READING	(鈴木英一他, 開拓社)
15	NEW STAGE English Course I, II, Reading	(川辺俊一他, 池田書店)
16	NEW STREAM I, II, Reading	(鈴木寿一他, 増進堂)
17	NEW WORLD English Course I, II	(瀧口優他, 三友社)
18	ONE WORLD English Course I, II READING	(國枝マリ他, 教育出版)
19	ORBIT English Reading	(高梨庸雄他, 三省堂)
20	Planet Blue English Course I, II, Reading	(根岸雅史他, 旺文社)
21	POLESTAR English Course I, II, Reading	(南出康世他, 数研出版)
22	Power On English I, II, Reading	(神保尚武他, 東京書籍)
23	POWWOW English Course I, II, Reading	(末永國明他, 文英堂)
24	PROMINENCE English I, II, Reading	(中田清一他, 東京書籍)
25	PRO-VISION ENGLISH COURSE I, II READING	(原口庄輔他, 桐原書店)
26	Step English I, II	(花本金吾他, 旺文社)
27	SUNSHINE English Course I, II, Readings; SUNSHINE Advanced Readings	(追村純男他; 橋本浩他, 開隆堂)
28	Surfing English Course I, II, Reading	(末永國明他, 文英堂)
29	Tomorrow English Course I, II	(島田守他, 啓林館)
30	UNICORN ENGLISH COURSE I, II READING	(市川泰男他, 文英堂)
31	Vista English Series I, II (step One, step Two)	(池田智他, 三省堂)
32	Viva English! I, II (Unit 1, Unit 2)	(南村俊夫他, 第一学習社)
33	Vivid English Course I, II, Reading	(南村俊夫他, 第一学習社)
34	Voyager English Course I, II, Reading	(南村俊夫他, 第一学習社)
35	WORLD TREK ENGLISH COURSE I, II READING	(浅野亮一他, 桐原書店)